

## 概要

- 本県のねぎは西日本一の栽培面積を誇り、標高差を活かしながりレー出荷を行っている。園芸の顔となるねぎ産出額100億円を達成するため、各産地での面積拡大を図った。
- 県内各白ねぎの産地では白ねぎ専用農地を確保し、作付け希望者とのマッチングを進めた。また、新規栽培者を確保するとともに既存生産者への規模拡大の推進を行った。
- 規模拡大に伴い苗生産・供給体制を整えるとともに、新規栽培者へは技術支援アドバイザー（先進農家）と研修会を実施し、技術の定着を図った。

## 具体的な成果

### 1 優良農地の確保と作付希望者とのマッチング

- 拡大希望農家、参入企業、新規栽培者へ作付予定地の紹介とマッチングを進めた  
**R5年 農地確保面積 222haうちマッチング済農地206ha**  
 ※R5.12.27時点

### 2 新規栽培者の確保と既存生産者の規模拡大の推進

- 個別推進、研修会、座談会、ケーブルテレビなどを活用して、関係機関と連携して推進した
  - ①新規栽培者数 **R3年度～R5年度 66名**
  - ②県内ねぎ面積の推移 **R3 983ha → R5 1,201ha (県見込み)**  
 ※こねぎ含む

### 3 育苗供給体制の確立

- 県内白ねぎ栽培拡大に伴い、広域育苗センターを設置した  
**広域育苗センターA：R5年供給面積10ha、  
 新規栽培者利用率92% (R4)**



広域育苗センターの様子



白ねぎ推進用チラシ

### 4 新規栽培者等の技術指導支援

- 技術支援アドバイザー（先進農家）と協力した基礎的技術支援及び研修会の実施

## 普及指導員の活動

令和3年度

- ねぎ100億円プロジェクトの実施に伴い、各産地ごとに普及指導員が中心となり、JAや市役所からなるプロジェクトチームを立ち上げ、関係者で情報共有し、推進体制を整えた。また、白ねぎ専用農地確保のため農地集積推進班が設置されるなど農地情報の収集及び交渉を行う体制ができた。

令和3年度  
～令和5年度

- 研修会や認定農業者研修会、集落営農組織研修会、企業参入セミナーなどで推進。
- 広域育苗センター設置、育苗管理指導を行いながら苗の供給体制を整えた。
- 新規栽培者対象とした支援アドバイザー（先進農家）との研修会や生産組織ごとの研修会を年5回実施。部会活動としての研修会も随時開催した。
- 関係機関とのチーム巡回を実施し技術の定着を図った。

## 普及指導員だからできたこと

- 白ねぎ産地拡大にあたっての課題と向き合いながら、産地の活性化に向け、普及のコーディネート機能を最大限に活かして関係機関と拡大推進が図れた。
- 新規栽培者への技術面でのサポート、講習会の実施など単収向上に向けた技術的支援を行えた。

大分県

## ねぎ産出額 100 億円プロジェクトによる白ねぎ産地拡大

活動期間：令和 3～5 年度

### 1. 取組の背景

大分県では白ねぎの栽培が県北の干拓地をはじめ、中山間地、高標高地で行われておりリレー出荷がされている。本県のねぎ産出額は西日本一ではあるが、これまで基幹品目として 100 億円を達成していなかった。そのためねぎを園芸品目の顔となるよう産地育成に取り組み、白ねぎ、こねぎを合わせた「ねぎ産出額 100 億円プロジェクト」(R3～R5)を実施し、関係機関一体となり産地拡大へ取り組んだ。

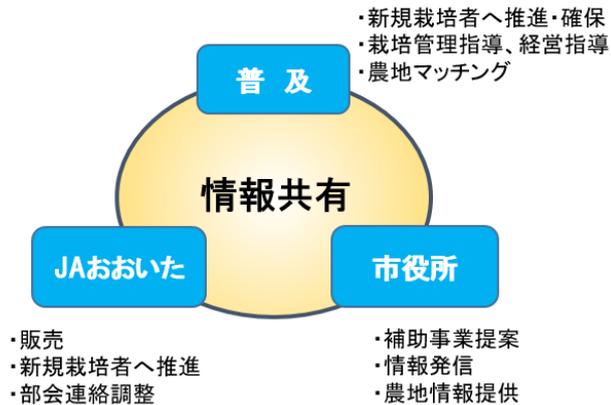


図 1 関係機関との推進体制図

### 2. 活動内容（詳細）

白ねぎ生産部会を対象とした「生産状況アンケート」等を実施するなど、各産地で規模拡大へ向けた課題を整理した中で、「優良農地の確保」、「新規栽培者の確保と既存農家のさらなる規模拡大」、「育苗供給体制の構築」、「技術指導による収量向上」などに取り組んでいくこととなった。

#### (1) 優良農地の確保と作付希望者とのマッチング

農地確保のためのターゲット地区を定めながら、農業委員会、農地利用最適化推進委員と連携し、白ねぎ作付用農地を確保した。そして拡大意欲のある生産者とのマッチングを進めた。

#### (2) 新規栽培者の確保と既存生産者の規模拡大の推進

部会研修会、認定農業者研修会、座談会、市報、ケーブルテレビ等を活用し、幅広く作付けを働きかけた。栽培希望者や拡大希望者へは JA・市・県の 3 者で個別訪問を行い、栽培スケジュールや経営指標を示しながら必要な機械や補助事業メニューなどの支援策を提案した。

#### (3) 育苗供給体制の確立

規模拡大に伴う課題として購入苗が確保できる体制作りが必要であったため、育苗生産可能な農家を選定して広域育苗センターを設置し、発芽～育苗管理の指導を行うなど、県内苗配布体制を整備した。

#### 推進方法・手段

- ・市報を活用した推進
- ・白ねぎ研修会での推進
- ・認定農業者研修会、集落営農組織研修会、座談会
- ・JA各分会、新規就農者への複合品目としての推進
- ・ケーブルテレビ出演
- ・個別推進(新規・既存生産者)
- ・JA選果場での関係機関との相談窓口設置
- ・たばこ廃作生産者協議
- ・企業参入セミナー                      など



図2 白ねぎ作付推進と手段

写真1 広域育苗センターの様子

#### (5) 新規栽培者等の技術指導支援

1～2年目の栽培者を対象に白ねぎの基礎的な技術習得のための現地研修会を技術支援アドバイザー（先進農家）と協力し実施した。加えて、JAと連携し月1回の新規栽培者全戸巡回を行いながら適期管理を徹底指導した（関係機関とのチーム巡回指導）。

### 3. 具体的な成果（詳細）

新規栽培者は県内66名確保し、白ねぎでの企業参入も図られた。ねぎ産出額100億円プロジェクトでの白ねぎ推進を行う中で、普及のコーディネート機能を十分に発揮し、関係機関が一体となった支援を行ったことにより、県内農地マッチングが農地確保面積222.5ha中206haで進み、令和5年度での白ねぎでの作付面積が1,201ha（こねぎ含む、県見込み）となった。

### 4. 農家等からの評価・コメント（豊後大野市A氏）

ねぎ産出額100億円プロジェクトの取り組みの中で、新規栽培者を始め生産者数が一気に増えてきた。生産部会員数が増えたため、お互いに情報交換ができ、栽培技術の向上につながった。

### 5. 普及指導員のコメント（地域農業振興課・主幹・衛本静枝）

ねぎ産出額100億円プロジェクトでは県内新規栽培者、既存生産者の面積拡大が図られた。今後も大分白ねぎの認知度を高め、更なる単収向上に向けて支援していきたいと考える。

### 6. 現状・今後の展開等

今回のプロジェクトでは新規栽培者が急激に増加したため、今後も栽培技術の定着と経営安定に向けた支援を継続して行う必要がある。また、大規模経営体では省力技術の定着や収量と品質の向上を図るなど、計画的な栽培体系を維持するためにも引き続き関係機関が連携し支援を継続する。